

## 施策の背景・経緯

- 少子高齢化をはじめ、社会構造が変化していく中において、我が国の競争力を強化し持続的な成長を図るためには、経済活動と国民生活を支える社会インフラたる物流の生産性向上と、その機能の発揮が必要不可欠。特に、物流の効率化に向けた荷主・物流事業者等の関係者の連携・協働を円滑化するための環境整備として、共同化・自動化・データ化等の前提となるソフト面及びハード面の標準化が必要。
- 上記の問題意識から、令和元年度、物流効率化に向け意欲的な取組が進められ改善の幅が顕著である加工食品分野における物流標準化について議論を進め、アクションプランをとりまとめたところ（令和2年3月）。
- この加工食品分野におけるアクションプランの実現に向けて、官民ともに取り組むとともに、進捗をフォローアップし、他分野への情報共有や横展開を図るため、フォローアップ会を実施したところ（令和3年6月）。

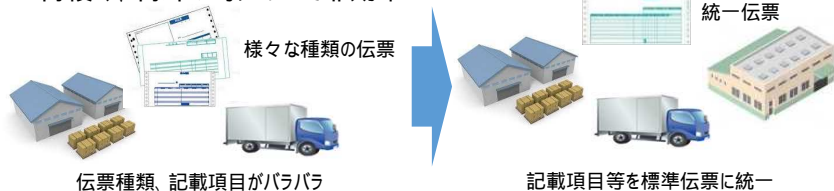
## 今後の予定

- 引き続き加工食品及びそれ以外の各分野における課題を整理し、業種分野ごとの標準化の取組を推進していくとともに、サプライチェーン上の様々な事業者の参画を得つつ、官民協働して、業界及び業種横断的な物流標準化に向けた検討を進める。

## ソフト面（データ・システム仕様）、ハード面（パレット等の資機材）における標準化項目・事例

### 伝票の標準化

荷主等の事業者ごとに伝票がバラバラであり、記載項目も異なるため、荷積み、荷卸し時において非効率



検品・事務作業の効率化

### 外装の標準化

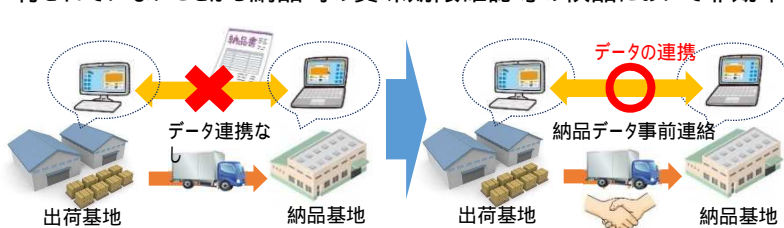
様々な商品サイズ・形状により、パレット等への積載効率が低下するなど非効率



荷役作業の効率化、積載効率、保管効率の向上

### 受け渡しデータの標準化

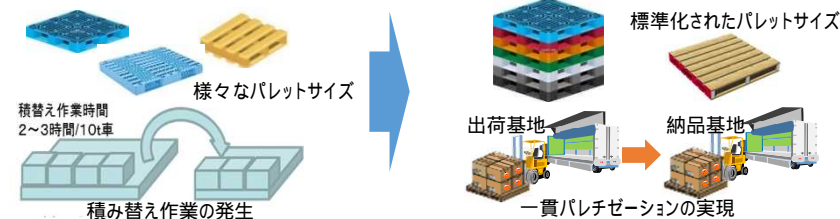
物流事業者と着荷主の間などで商品データが標準化された仕様で共有されていないことから納品時の賞味期限確認等の検品において非効率



検品・荷卸し作業の効率化

### パレットの標準化

様々なパレットサイズにより、積替え作業の発生や積載効率が低下するなど非効率



荷役作業の効率化、トラックへの積載効率の向上

令和3年6月3日、第1回「加工食品分野における物流標準化アクションプラン フォローアップ会」を開催。アクションプラン策定後、約1年間の各項目の進捗状況を共有。アクションプラン策定時の参画企業に加え、周辺他分野より、約40の企業・団体がオブザーバーとして出席。今後も定期的に開催し、情報共有・方針の検討を行うことで、加工食品分野内外における標準化を推進する。

### 納品伝票

複数システムベンダーによる伝票電子化システム間の相互連携の取り組み

**納品伝票エコシステム**  
どの納品伝票サービスを選んでも、各社のデータが見られる仕組み

**ユーザーメリット**  
課題: 相手先が使用しているシステムを考慮しなければならぬ  
解決イメージ: シンプルなインターフェースで、必要なデータにアクセスできる  
多画面での操作、バラバラなデータで、業務負荷がかかる  
データ一元化が進み、システム間連携によって、業務自動化が進む

### 外装サイズ

加工食品分野における外装サイズ標準化協議会による「外装サイズ標準化ガイドライン」策定の取り組み

**本ガイドラインの概要**

- 本ガイドラインの対象者
  - ▶本ガイドラインを活用して外装サイズの標準化に取り組みの対象者は下記のとおり。 a) 加工食品製造業者 b) 卸・小売業者 c) 物流事業者（倉庫事業者・トラック運送事業者）
- ガイドラインの対象者が使用するパレットの平面サイズ
  - ▶本ガイドラインは、1100×1100mm（T11型）パレットを対象とする。
- 包装貨物を積み付ける最大平面寸法
  - ▶流通過程における湿気や圧縮荷重の影響によって包装貨物が膨れにしても1100mmを超えないように40mmのクリアランスを考慮し、1060mm×1060mmとする。
- パレタイズド貨物の全高
  - ▶大型トラック荷台に二段積み可能な1300mm以下が望ましい。
- 外装サイズの標準寸法
  - ▶1100mm×1100mmの平面寸法に対して90%以上の平面積載率になるように設定、L×W×H：265mm×210mm×210mmを基本とする。
- 外装箱の最大重量
  - ▶労働安全衛生法における「満18歳以上の女性の継続作業」の上限値を参考として、20kgとする。
- 卸・小売業者におけるパレット単位の発注
  - ▶付帯作業の軽減や、複数商品の積み合わせなどにより、10t車満載で輸送可能な輸送ロットの確保などが期待できることから、卸・小売業者との連携によるパレット単位の発注についても記載

### データ

SIPスマート物流サービスによる「物流・商流データ基盤」の開発、「標準化ガイドライン」策定の取り組み

**SIP物流標準ガイドライン**

「SIPスマート物流サービス」  
物流・商流データ基盤

**SIP物流標準ガイドライン概要**  
3.(2) 標準化の検討対象

標準化の検討対象	内容
物流業務プロセスの標準化（プロセス標準）	運送計画や集荷、入出庫といった物流プロセスの流れやルールを定義する。POC事業者が実証実験を行う新プロセスを反映したプロセスとする。
データ基盤のデータ表現標準化（メタセージ標準）	運送計画情報や出荷情報、運送依頼情報といったメタセージを定義する。社会実装（POCプロトタイプ）においてデータ基盤を利用する際のデータ表現となる。
データ基盤のメタデータ標準化（コード標準）	日付表現や場所コード、企業コード、商品コード、出荷梱包コードを定義する。社会実装（POCプロトタイプ）においてデータ基盤を利用する際のコードとなる。

### 外装表示

GS1 Japanによる「ケース単位への日付情報等のバーコード表示ガイドライン」策定の取り組み

2. ガイドラインのポイント  
④文字表示のガイドラインと、段ボールへの表示例

【製・配・販連携協議会 商品段ボールへの日付情報等の表示にかかるガイドライン】（2013年）を再掲

1. 文字の表示位置  
ITF システムが印字されている面（一部の商品スペース（原則4側面））

2. 文字の大きさ、種類  
32ポイント以上の見やすいフォント

3. 文字の表示方法

- 賞味期限（消費期限、有効期限、使用期限）を製造日または出荷日：
  - 【賞味期限】（消費期限）【有効期限】（使用期限）の文字の後に年（西暦4桁）月（2桁）日（2桁）を付して表示して表示
  - 【表示例】 賞味期限 2020.03.29
- 賞味期限を製造日または出荷日：
  - 【賞味期限】の文字の後に年（西暦4桁）月（2桁）日（2桁）を付して表示して表示
  - 【表示例】 賞味期限 2020.10

賞味期限 2020.10.15

01145912345678918  
111200510  
115201015  
1101011026

© GS1 Japan 15

「加工食品分野における物流標準化アクションプラン」を受け、外装サイズの標準化に関して、主としてT11パレットを利用する複数事業者で「加工食品分野における外装サイズ標準化協議会」( )を開催し、T11パレット利用時における効率的な外装サイズの在り方について議論が行われた。

当協議会では、外装段ボールサイズの標準化に関する以下の事項を検討し、「加工食品分野における外装サイズガイドライン」として取りまとめた。外装サイズの標準化が実現した際には「パレットへの積載効率の向上、輸送効率等の向上など、荷主にとっても大きな効果が期待できる」としている。

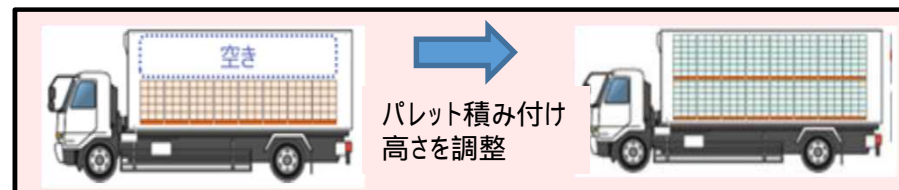
事項	内容
寸法	外装サイズの標準寸法は、1,100 mm × 1,100 mmの平面寸法に対して90%以上の平面積載率になるよう設定する。具体的な外装サイズの標準は、「加工食品分野における物流標準化アクションプラン」を参考に、 <b>L(長さ) × W(幅) × H(高さ) = 265mm × 210mm × 210mm を基本とする。</b>
重量	外装箱の最大重量は、労働安全衛生法における「満18歳以上の女性の継続作業」の上限値を参考として、20kgとする。
種類	パレットなどに積載する段ボール箱(外装用段ボール箱)は、JISZ1506により、現時点における具体的な種類は8種類である。
包装貨物の強度基準(試験基準)	包装貨物の外装箱の強度については、使い勝手を考慮した天面ミシン目の設計、コストの合理化などを考慮して検討する必要があり、カートンメーカーを含めた検討が必要になる。強度の試験基準については、振動試験(継続的に振動が生じる車輛輸送等を対象とした試験)や圧縮試験(保管条件の程度別に荷重係数・負荷係数を掛けた数値の算出)をもとに設定している。

右に示したパレットへの積み付けパターンの例において、黒い部分の面積をできる限り小さくする外装サイズとすることを目指す



20箱の例

24箱の例



( ) 「加工食品分野における外装サイズ標準化協議会」

【構成員】味の素株式会社、F - L I N E 株式会社、株式会社キューソー流通システム、キューピー株式会社、株式会社セブン&アイ・ホールディングス、株式会社ジジージャパン、一般社団法人日本加工食品卸協会、流通経済大学

【オブザーバー】国土交通省 総合政策局 物流政策課・自動車局 貨物課、農林水産省 食料産業局 食品流通課・食品製造課、経済産業省 商務・サービスグループ 物流企画室

【事務局】株式会社日通総合研究所、公益社団法人日本包装技術協会

(公益社団法人日本包装技術協会HP) <https://www.jpi.or.jp/info/data/guideline20210415.pdf>



## 概要

令和3年6月15日に閣議決定された新しい総合物流施策大綱では、取り組むべき大きな柱のひとつとして「物流DXや物流標準化の推進によるサプライチェーン全体の徹底した最適化（簡素で滑らかな物流の実現）」を提言。

物流DXの推進のためには、その大前提として、物流を構成するソフト・ハードの各種要素の標準化が必要不可欠。長年の課題であった物流標準化を実現するため、長期的視点でその課題や推進方策を議論・検討するため「官民物流標準化懇談会」を設置・開催。

## 対象となる議題・テーマ

ハード・ソフト含むすべての物流各項目

### 第1回 官民物流標準化懇談会 (令和3年6月17日)

- ・物流標準化の重要性や意義、検討すべき課題や、議論にあたって留意すべき観点等について確認。
- ・懇談会の下に個別の標準化テーマごとの分科会を設け、専門家の意見等も聞きながら標準化の方策について検討を進めていくことを決定。
- ・具体的には、まずは先行的に物流機器（パレット等）の標準化について検討する分科会の設置・開催を決定。

## 今後の予定

同懇談会は年1～2回の開催予定。  
個別のテーマは分科会にて議論。

## 「官民物流標準化懇談会」構成員（五十音順、敬称略）

荒木 毅	日本商工会議所 社会資本整備専門委員会委員長 (富良野商工会議所会頭)
荒木 秀夫	S Gホールディングス株式会社 代表取締役社長
栗島 聡	公益社団法人経済同友会 幹事
内田 富雄	一般財団法人日本規格協会 業務執行理事
金子 千久	全国農業協同組合連合会 参事
神宮司 孝	株式会社日立物流 代表執行役副社長
高岡 美佳	立教大学経営学部 教授
長尾 裕	ヤマトホールディングス株式会社 代表取締役社長 社長執行役員
根本 勝則	一般社団法人日本経済団体連合会 専務理事
根本 敏則	敬愛大学経済学部 教授
橋爪 茂久	公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 専務理事
二村 真理子	東京女子大学現代教養学部 教授
堀切 智	日本通運株式会社 代表取締役副社長
馬渡 雅敏	公益社団法人全日本トラック協会 副会長
味水 佑毅	流通経済大学流通情報学部 教授
米田 浩	一般社団法人日本倉庫協会 理事長
渡邊 健二	一般社団法人日本物流団体連合会 会長
太田 豊彦	農林水産省 食料産業局長
畠山 陽二郎	経済産業省 商務・サービスグループ審議官
久保田 雅晴	国土交通省 総合政策局 公共交通・物流政策審議官
菟川 直也	国土交通省 自動車局長

## 総合物流施策大綱

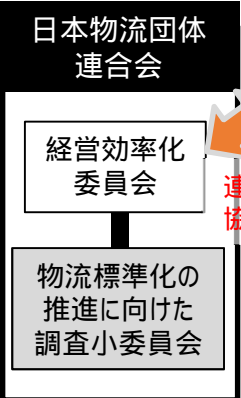
### 物流にかかる規格の標準化

#### 官民物流標準化懇談会

**議題** : ハード・ソフト含むすべての物流各項目 (パレット・外装サイズ、外装表示、納品伝票、コード体系・物流用語等) の規格にかかる標準化

**進め方** : 特定の標準化項目 (例: パレット規格等) を取り上げて、順次、実行に結び付く標準化の方向性 (標準規格 / 民間・行政での具体的な推進手法等) につき議論・検討。詳細の検討にあたっては懇談会 (年1~2回) の下に分科会を設置する等で対応。

**構成員** : 行政、物流団体、主要物流事業者、学識経験者、経済団体、荷主系団体等



検討結果の業界への共有

検討結果の業界への共有

**【ソフトの標準化】**  
SIPスマート物流サービス

- ・物流・商流データ基盤を活用したデータ連携・標準化による物流効率化

先例としての知見の提供

基盤の利活用を通じた物流情報の標準化

**業種分野ごとの物流標準化の取組**

- ・ハード・ソフト含むすべての物流各項目 (パレット・外装サイズ、外装表示、納品伝票、コード体系・物流用語等) の規格にかかる標準化

**加工食品分野における物流標準化アクションプラン (フォローアップ会)**

分業における物流標準化取組

標準化による更なる生産性向上・労働時間改善

商慣習等見直しによる標準化推進

トラックドライバーの働き方改革

ホワイト物流推進運動  
標準貨物自動車運送約款等の改正 等

**業種分野ごとの生産性向上及びトラックドライバーの労働時間改善に関する懇談会**

- ・受発注条件の見直し
- ・荷待ち時間の削減
- ・荷役時間の削減
- ・附帯作業時間の削減 等

**加工食品物流における生産性向上及びトラックドライバーの労働時間改善に関する懇談会**

酒・飲料

**建設資材物流における...懇談会**

**紙・パルプ物流における...懇談会**

自動化・機械化の取組の推進

高度物流人材の育成・確保